



アジア太平洋研究センター設立記念国際シンポジウム

「アジア太平洋における平和と人権 ～ディアスポラを中心に～」を開催

メアリー・ロビンソン氏(前国連人権高等弁務官) 嘉治美佐子・外務省人権人道課長があいさつ



シンポジウムは朝から夕方まで活発な議論が行われた。

2月25日、東京麻布台セミナーハウスにおいて、アジア太平洋研究センター(CAPP)の設立を記念する国際シンポジウム「アジア太平洋における平和と人権～ディアスポラを中心に～」が開催された。シンポジウムには、北京大学、オーストラリア国立大学、タイ・チュラロンコン大学、韓国・大邱カトリック大学、早稲田大学、立命館大学 5ヶ国7大学の9名の教授がパネリストとして参加し、CAPP研究員をはじめ関東在住の大学院生・大学教員・研究者ら約60名が、終日、熱心な議論を展開した。



基調講演をする武者小路所長

シンポジウムの冒頭、主催者を代表して藤田整学長が、「シンポジウムが大きな成果をうみ、成功裏に終わることを心より祈念いたします」と、あいさつを行った。メアリー・ロビンソン氏(元アイルランド共和国大統領/前国連人権高等弁務官)のビデオメッセージが上映された後、来賓の外務省の嘉治美佐子人権人道課長が、あいさつに立ち「政府や国際機関が、皆様のような学会やNGOなどの市民社会と十分に協力することがますます重要となってくる」と語った。

つづいて武者小路公秀CAPP所長が、基調講演を行った。武者小路所長は、「ディアスポラは、自分の国にとどまる人もいるし、移動して外の世界に定着する人もいる。いろんな人がいることによって、アジアというのは面白い場所になっている。文化的な多元主義が存在しているのが、アジアである」と指摘し、「人権や平等から出発するが、互いに『異なっている』ことに誇りを持つべきである。と『違い』を持ちながら、社会の中で共に生きていくことの重要性を述べた。

その後、午前中の第1セッションでは、オーストラリア国立大学教授のテッサ・モーリス・スズキ教授を座長に、「ディアスポラの現代史的意味」をテーマにして議論が繰り広げられた。とりわけ、「ディアスポラ」の概念規定をめぐって、移民との比較のなかで白熱した議論が交わされた。

午後からの第2セッションでは、チュラロンコン大学のスリチャイ・ワンゲーオ教授を座長に、「東アジアにおけるディアスポラの問題性と可能性」という主題の下、日本・韓国・中国をはじめ北東アジアにおけるさまざまなレベルのネットワークの評価を巡って議論が盛り上がった。

最後の第3セッションでは、武者小路公秀所長を座長にして、アジア太平洋地域における将来の多文化社会創造のための諸条件と可能性を模索するための、研究課題や方向性が議論された。

朝9時から開始されたシンポジウムは、夜6時30分まで、興味深い議論が繰り広げられた。今後も年1回のペースでこうした国際シンポジウムの開催をはじめ、共同の調査研究や国際的なネットワークづくりを進めることを確認して、シンポジウムを終えた。

ディアスポラとは、世界各地に離散したさまざまな民族集団のこと。元来は、ユダヤ・ディアスポラを指したが、今では、華僑や在日コリアンあるいは外国人労働者などのこともディアスポラと呼ぶことがある。

校友会報

vol.9

大阪経済法科大学・校友会報・9号
Eメールアドレス:kouyu@keiho-u.ac.jp
編集 / 大阪経済法科大学校友会事務局
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番地
TEL 0729-41-8211(代)
FAX 0729-41-1510

校友会報・9号 2004年5月30日発行



CONTENTS

- 校友会NOW
- 香川・岡山支部総会報告
- 事務局だより
- 幹事会報告・2003年度事業報告
- 2004年度事業計画
- 学歌がカラオケに
- 活躍する卒業生
- 大学の近況

香川支部総会報告

昨年9月27日(土)第4回香川支部総会が瀬戸内海を一望する高松市浜ノ町の海楽亭「きらら」で開催された。今回の総会は在学生在が夏休み期間中ということもあり、在学生会(校友会準会員)にも総会参加の案内を行った。夏休み最後の土曜日ということもあり、在学生会は既に大阪の下宿に戻っているのではないかと心配もあったが、法学部1年生が参加してくれた。

在学生会への総会参加案内は、この間の香川支部での集まりで意見として出された、「卒業生先輩として、何か在校生の役に立ちたい」「在学生会が帰省する夏休み期間を利用して校友会香川支部主催のイベントを行いたい」との想いが実現したもので、総会に参加した卒業生校友は大喜びであった。総会は、石塚央支部長(6期生)の挨拶で始まり、第5回校友会総会報告 今後の香川支部活動、についての意見交換が行なわれ、来年(2004年)の総会も「在学生会が集い、卒業生と交流を持てる企画」を十全に行っていくことが確認された。

総会の後は懇親会に移り、会員間の交流や在学生会へのアドバイスなど話しは尽きることなく懇親会は続いた。香川支部も今年9月で設立5周年を迎える。第5回支部総会は、更に内容を工夫し、多数の会員と在学生会に参加していただき、楽しんでいただけることを願って、香川支部役員一同頑張りたい。

2004年の香川支部総会は8月21日(土)の予定で企画しています。詳細が決まりましたら案内いたします。

岡山支部総会報告



全国の校友会会員の皆さん、お元気ですか。岡山支部では2000年9月設立以来、4回目の支部総会を今年の2月28日、例年通り「えきまえミヨシノ」にて開催いたしました。

大学より、東郷経済学部教授、庶務課職員の藤原さん、校友会事務局より高岡就職課長補佐をお招きし、大学の様子や校友会活動の近況を報告していただきました。また、今後の支部活動のあり方についても活発な意見交換を行い、一人でも多くの会員が参加できるよう今後も岡山支部として企画を検討していくことを全員で確認、総会は終了しました。

続いて懇親会では、和やかな雰囲気の中、話は自然とそれぞれの学生時代に...

瓢箪山近辺での下宿生活の話やクラブでの出来事など、毎年同じ話で不思議と盛り上がっていました。さらに二次会はカラオケスナックで学歌斉唱が岡山支部の慣例。学歌「我が白き学舎に」を全員で合唱し、延々と楽しい時間を過ごしました。初めて参加の方大歓迎!家族連れでも大歓迎!女性は超歓迎です!



各支部の連絡先

- 東京支部** 支部長 宮松 久浩
・勤務先 伊藤忠ウインドウズ株式会社 関東営業所 所長
・TEL03 - 5549 - 4451
・E-mail:miyamatsu@itcw.co.jp
- 愛知支部** 支部長 中町 守人
・住所 〒547 - 0802名古屋市南区要町5 - 86 (有)中町印刷
・TEL052 - 612 - 0120
- 石川支部** 支部長 松井 信司
・住所 〒902 - 0935金沢市石引1 - 13 - 14
・(携帯電話)090 - 8267 - 5172
・E-mail:smatui@po3.nsknet.or.jp
- 岡山支部** 支部長 津嶋 講一
・住所 〒706 - 0224玉野市八浜町大崎1843-1 (有)オレンジ薬局 / 代表取締役
・勤務先 086-261-2266
・TEL0863 - 51 - 3766(自宅)

第5回校友会総会開催



全国から校友が集い交流深める

昨年6月28日、第5回大阪経済法科大学校友会総会ならびに懇親会が、大阪梅田の「ザ・リッツカールトン大阪」で開催された。全国各地から卒業生が参加し、大学からは在校生・教職員そして父母会役員などが参加、総勢150名の関係者で会場は賑わった。定刻の午後3時から、阪本誠常任幹事(1977年度卒業)の司会で総会が始まり、伴井敬司会長(1974年度卒業)の開会の挨拶、藤田整学長(校友会顧問)の挨拶が行なわれた。伴井会長は挨拶の中で、「今年度事業として、新たに在学生会への奨学金制度を創設した」ことを紹介され、今後は校友会と父母会との接点を作ることが大切で、そのための「共同事務局の設置」

などが今後必要であるとの考えを述べられた。また、今回の総会は、参加した校友に少しでも楽しんでいただくため、講演会の開催や卒業生のミュージシャンによるミニコンサートを準備したことが紹介され、今後もイベントの工夫をしていきたいと述べられた。引き続き校友会顧問である藤田整学長より、校友の再会を歓迎する挨拶と大学の近況報告が行われた。

総会議事では、2002年度事業報告及び収支決算書、2003年度事業計画及び収支予算書、第3期校友会役員についてが報告・紹介された。

プログラム第2部では、本学卒業生(校友会幹事)であり弁護士の濱田剛史さんによる「知って得する法律知識 - 日常生活編 -」をテーマにした講演が行なわれ、懇親会へと進んでいった。第3部の懇親会は、沢勲副会長(大学学長補佐)の開会の挨拶と岩村等常任幹事(大学学生部長)の乾杯の音頭で始まり、あちらこちらで再会



を喜び合う和やかな懇談の光景が見られた。そして、懇親会のイベントとして本学卒業生でありミュージシャンとして活躍している「ウインズ」の平阪佳久さんのミニコンサートが行なわれた。懇親会の最後

には、学歌「我が白き学舎に」を全員で合唱し会場は更に盛り上がっていった。楽しいひと時もアツアツ言う間に過ぎ1年後の、再会を約束しながら懇親会はお開きとなった。





事務局 だより

幹事会報告



2003年6月28日に開催された、第5回校友会総会以降、幹事会が以下のとおり開催された。各幹事会の主な審議内容について報告する。

第18回幹事会

日時：2003年10月18日(土) 16時開会
場所：I.S.D布施(留学生宿舎)2階会議室
議題：校友会奨学金募集要項について
第4回校友会香川支部総会について
父母会役員会との交流について

<審議の概要>
第18回幹事会では、第17回幹事会(2003年6月28日開催)で承認された「大阪経済法科大学校友会奨学金規程」に基づき、2003年度の奨学金募集要項が確認され、常任幹事が選考委員となり奨学金選考委員会を開催することになった。
続いて、2003年9月27日に開催された第4回香川支部総会についての報告が行われ、父母会役員会との交流については、先ず親睦を深めるための懇親会を開催することになった。
父母会役員との交流は、2003年12月20日開

第19回幹事会

日時：2003年12月20日(土) 16時開会
場所：I.S.D布施(留学生宿舎)2階会議室
議題：校友会奨学金の奨学生選考結果について
2004年度事業計画について

<審議の概要>
第19回幹事会では、校友会奨学金奨学生の選考結果について報告が行われた。
引続き、2004年度事業計画についての審議に入り、第6回校友会総会および懇親会内容
校友会幹事の役割 地方支部活動への支援 父母会との共同事業の模索 校友会奨学金予算と選考委員会 在学生の課外活動支援 広報活動 中長期的な事業計画、などについて意見交換を行った。

第20回幹事会

日時：2004年3月27日(土) 16時開会
場所：I.S.D布施(留学生宿舎)2階会議室
議題：2003年度事業報告及び収支決算書について
2004年度事業計画及び収支予算書について

<審議の概要>
第20回幹事会では、2004年2月28日に開催された第4回岡山支部総会についての報告が行われた後、2004年度事業計画及び予算案について集中的な審議が行われた。事業計画審議では、第6回総会・懇親会の企画 地方支部活動と校友会幹事会からの支援 在学生の学生生活支援 中長期計画としての10周年事業 幹事会の役割分担、などについて意見交換が行われた。なお、2004年度事業計画については、5月15日に開催される第21回幹事会で審議・承認することになった。

第21回幹事会

日時：2004年5月15日(土) 16時開会
場所：I.S.D布施(留学生宿舎)2階会議室
議題：2003年度事業報告及び収支決算書について
2004年度事業計画及び収支予算書について

<審議の概要>
第21回幹事会では、2003年度事業報告及び収支決算書 2004年度事業計画及び収支予算書、について審議され、承認された。
2003年度事業・収支決算および2004年度事業計画・収支予算については、6月26日に開催される第6回総会で報告される。

大阪経済法科大学 校友会奨学金選考委員会

日時：2003年11月15日(土) 15時開会
場所：大阪経済法科大学本部棟2階A会議室
議題：2003年度大阪経済法科大学校友会奨学金奨学生の選考について

<審議の概要>
第18回幹事会の確認に基づき、校友会奨学金奨学生の選考が行われ、選考の結果16名の奨学生が採用された。



2003年度事業報告(事業別)

2003年度校友会収支決算書

2003年4月1日から2004年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	差異	備考
1. 校友会費				
準会員	13,890,000	14,619,500	729,500	在学生
正会員	1,000,000	1,020,000	20,000	卒業生
特別会員	200,000	180,000	20,000	教職員等
2. 懇親会参加費	450,000	225,000	225,000	
3. 受取利息	100	34	66	
小計	15,540,100	16,044,034	503,934	
前年度繰越金	4,059,509	4,059,509	0	
収入の部合計	19,599,609	20,103,543	503,934	

支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	差異	備考
1. 総会				第5回総会6月28日開催
旅費交通費	300,000	207,880	92,120	
印刷製本費	380,000	399,000	19,000	
会議費	2,500,000	1,859,394	640,606	
講演料	0	55,555	55,555	
2. 幹事会				第16回から20回幹事会等
旅費交通費	200,000	136,000	63,600	
会議費	150,000	12,582	137,418	
3. 支部総会				香川支部総会9月27日開催 岡山支部総会2月28日開催
旅費交通費	300,000	0	300,000	
通信費	500,000	86,010	413,990	
会議費	900,000	152,240	747,760	
4. 会報・HP				校友会報第8号(5月30日発行)
通信費	2,100,000	1,816,491	283,509	
印刷製本費	1,200,000	1,220,100	20,100	
報酬委託手数料	600,000	275,226	324,774	
5. 奨学金・卒業生名簿				16名採用 2003年度卒業生名簿
奨学費	3,840,000	3,840,000	0	
印刷製本費	150,000	127,050	22,950	
6. 共通・事務費				
消耗品費	200,000	77,747	122,253	
通信費	100,000	85,940	14,060	
印刷製本費	800,000	236,250	563,750	
報酬委託手数料	300,000	16,620	283,380	
渉外費	100,000	28,000	72,000	
7. 予備費				2002年度卒業生名簿
予備費	100,000	127,050	27,050	
小計	14,720,000	10,759,535	3,960,465	
前年度繰越金	4,879,609	9,344,008	4,464,399	
支出の部合計	19,599,609	20,103,543	503,934	

1) 総会

第5回大阪経済法科大学校友会総会
・6月28日(土)開催、参加者125名
・2002年度事業報告及び収支決算書について報告された。
・2003年度事業計画及び収支予算書について報告された。
・第3期校友会役員について報告された。
弁護士 濱田剛史氏(14期生・校友会幹事)講演会開催。
懇親会開催。

2) 幹事会

常任幹事会
・4月19日(土)開催。
・2003年度事業計画(案)が審議された。
・第3期校友会役員選出(案)について審議された。
第16回校友会幹事会
・5月17日(土)開催。
・岡山支部総会報告及び支部役員承認、
沖繩支部総会報告がなされた。
・2002年度事業報告及び収支決算書について提案され、承認された。
・2003年度事業計画及び収支予算書について提案され、承認された。
・第3期校友会役員について提案され、承認された。
・第5回校友会総会について提案され、承認された。
第17回校友会幹事会
・6月28日(土)開催。
・第3期校友会役員紹介。
・第5回校友会総会実施要領についての打合せ。
・大阪経済法科大学校友会奨学金規程について提案され、承認された。
第18回校友会幹事会
・10月18日(土)開催。
・校友会奨学金の募集要項について報告された。
・香川支部総会報告がなされた。
・父母会役員との交流について審議された。
・今期事業の進捗状況について報告され、今後の事業展開について審議された。
常任幹事会
・11月15日(土)開催。
・大阪経済法科大学校友会奨学金の奨学生(16名)について選考され、承認された。
第19回校友会幹事会
・12月20日(土)開催。

- ・校友会奨学金の奨学生選考結果について報告された。
- ・2004年度事業計画(案)について提案され、審議された。
- 第20回校友会幹事会
- ・岡山支部総会報告がなされた。
- ・2003年度事業報告及び収支決算書(案)について提案され、承認された。
- ・2004年度事業計画(案)及び収支予算書(案)について提案され、承認された。
- ・幹事の役割分担(案)について提案され、審議された。

3)地方支部活動

沖繩支部総会

- ・3月21日(金)開催。
- ・第4回校友会総会報告がなされた。
- ・支部活動の参加会員拡大と今後の支部活動について審議された。

香川支部総会

- ・9月27日(土)開催。
- ・第5回校友会総会報告がなされた。
- ・在学生との交流を持てる企画について審議された。
- ・今後の支部活動について審議された。

岡山支部総会

- ・2月28日(土)開催。
- ・第5回校友会総会報告がなされた。
- ・支部活動の参加会員拡大について審議された。
- ・今後の支部活動について審議された。

4)会報・ホ・ムペ・ジ

校友会報第8号

- ・5月30日発行
- ・支部組織の活動、2002事業・決算報告、2003事業計画・予算報告、奨学金制度、大学の近況等の内容が掲載された。
- ホ・ムペ・ジ
- ・校友会ホ・ムペ・ジをリニューアル。

5)奨学金・卒業名簿

校友会奨学金

- ・2003年度は、秋に募集を行い常任幹事会で選考し、16名を採用された。
- 卒業名簿
- ・2003年度卒業生名簿を作成し、卒業式当日に配布した。

2004年度の事業計画

1)第6回校友会総会・懇親会

日時
6月26日(土) 16:00~20:00
場所
ホテルニュー・オ・タニ大阪
懇親会参加費
3,000円

<プログラム>

- 部 校友会総会
- 部 講演会
- 部 懇親会パ・ティ-

2)地方組織

<支部組織支援の方策>

- 支部活動企画運営補助を行う。
- <新規予算>
- 幹事会として支部組織強化の人員配置を行い、地方支部長を支援する。

3)校友会報

校友会総会開催案内を兼ね、校友会報第9号を5月下旬発行。

4)学生活動支援

校友会奨学金

(月額2万円×12ヶ月の24万円を給付、1年限り)

2004年度より奨学生採用枠を20名(2003年度16名)とする。
奨学金選考委員会の構成：
常任幹事に加え幹事より3名程度選出

<募集・選考日程>

4/8 ~ 4/13

奨学金説明会

4/12~4/28

申込受付期間

6/26

奨学金選考委員会

(校友会総会当日14:00~)

7月上旬

採用者発表

卒業式

- ・卒業生名簿作成費増額
- ・卒業生祝賀会<新規予算>
- 経法祭参画費<新規予算>
- ・校友会の名前入りTシャツ購入
- ・企画運営費

学生活動企画援助金<新規>

学生の様々な活動・企画に対し、選考のうえ援助金を出す。

5)事務局の強化 新規予算

校友会事務を担当する人員と必要な物的条件の配置・整備を検討する。

6)10周年記念事業 新規予算

準備委員会をもちけ事業内容を検討、予算措置(2004年度)を行う。

2004年度校友会収支予算書

2004年4月1日から
2005年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 校友会費				
準会員	18,940,000	13,890,000	5,050,000	在学生
正会員	1,000,000	1,000,000	0	卒業生
特別会員	200,000	200,000	0	教職員等
2. 懇親会参加費	300,000	450,000	150,000	100名×3,000円=300,000円
3. 受取利息	100	100	0	
小計	20,440,100	15,540,100	4,900,000	
前年度繰越金	9,344,008	4,059,509	5,284,499	
収入の部合計	29,784,108	19,599,609	10,184,499	

支出の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 総会				
総会等運営費	2,500,000	2,500,000	0	総会・表彰・懇親会等
報酬委託手数料	300,000	0	300,000	講演会、演奏等企画費
印刷製本費	380,000	380,000	0	案内状(カラー刷)等
旅費交通費	300,000	300,000	0	支部役員等出席旅費
2. 幹事会				
会議費	500,000	150,000	350,000	幹事会開催費用(年6回開催予定)
旅費交通費	200,000	200,000	0	支部役員等出席旅費
3. 支部活動支援				
会議費	900,000	900,000	0	支部総会開催費
旅費交通費	500,000	300,000	200,000	支部総会への出席旅費等
活動援助費	500,000	0	500,000	支部活動・運営・企画補助
4. 会報・HP				
印刷製本費	1,200,000	1,200,000	0	校友会報発行
通信費	2,000,000	2,100,000	100,000	校友会送達費
報酬委託手数料	400,000	600,000	200,000	発送代行費・HP制作費
5. 学生支援				
奨学金費	4,800,000	3,840,000	960,000	20名(各学年5名)×2万円×12ヶ月
卒業生名簿	500,000	150,000	350,000	2004年度卒業生名簿
卒業祝賀会	1,000,000	0	1,000,000	
経法祭参画費	300,000	0	300,000	テント購入・企画運営費
学生活動援助費	1,000,000	0	1,000,000	学生企画・活動援助金
6. 共通・事務費				
印刷製本費	400,000	800,000	400,000	封筒等
消耗品費	400,000	200,000	200,000	パソコン、会報送付用タックシール等
通信費	500,000	600,000	100,000	支部活動通信費含む
報酬委託手数料	100,000	300,000	200,000	
人件費	1,200,000	0	1,200,000	事務局関係実務
渉外費	100,000	100,000	0	
7. 事業確立				
10周年記念事業確立金投入	5,000,000	0	5,000,000	
8. 予備費				
予備費	2,000,000	100,000	1,900,000	学生支援等
小計	26,980,000	14,720,000	12,260,000	
次年度繰越金	2,804,108	4,879,609	2,075,501	
支出の部合計	29,784,108	19,599,609	10,184,499	

(注)前年度予算額については、本年度予算額に対応させて、適宜、組み替えを実施している。その結果、前年度予算額における支部総会通信費は、共通・事務費通信費予算に含めて表示されている。

藤原 弘介さん (1996年度 法学部卒)

PL学園の野球部監督として、昨年の夏、甲子園・全国高等学校野球選手権への出場を果たした藤原さんにインタビューをお願い致しました。インタビューを通して、伝統ある強豪校の監督を務めている緊張感とともに、選手・生徒の成長を第一に考える思いやりある指導者になるために、常日頃努力されていることを強く感じました。

インタビュー:加藤真司(本学野球部監督、学生課職員)



—まずは甲子園出場(2003年・夏)おめでとございます。監督として甲子園出場を果たした感想はいかがですか。

藤原 1回戦で53,000人満員の中で試合ができたことに感激しました。甲子園出場までの大阪大会がとても苦しい試合ばかりだったので、特にそう思いましたね。

—監督就任2年目で甲子園出場を果たしたわけですが、伝統ある強豪校を率いていく重圧は相当なものだったでしょう。

藤原 ずっと胃が痛かったですね。昨年に監督に就任した時は、「闘えば勝てる」という根拠のない自信を持っていたのですが、実際には送りバントもまともにできない状況で、選抜出場をかけた近畿大会にも出場できませんでした。それからの1年間は「これでもか」という気持ちでとにかく練習に打ち込み、ここまで来たという感じですね。監督として選手を指導しながら考えるのは、選手に言うことは結局自分に返ってくるということです。「なぜバントができないんだ」と選手に言うよりも、できるように練習の中でしっかりと指導してこなかった監督の責任だと思うようになりました。ですから、今年の夏の大会はいかに自分たちが普段練習でやっていることを出せるかに集中してきました。

—選手の姿は監督の指導方針が反映したものだということですね。選手指導の成果が現れると、監督としての充実感も大きいと思いますが。

藤原 大会ごとに目標を設定して臨んでいきたいと思っています。今は一つずつ課

題をクリアして次に進むという感じで毎日が充実しています。もちろん野球部ですから、野球を指導するわけですが、何よりも取り組む姿勢というものを大切にしたいと考えています。高校を卒業して野球を続ける進路に進む者もいれば、そうでない者もいるでしょう。しかし野球というものを通じて物事に取り組む姿勢を身に付けることができればと思います。

—監督らしい答えですね(笑)。これから「藤原の野球」というものを見せてください。藤原さんが監督になったと言うと、周囲の人からはよく「どうやってなったのか」と聞かれるんです。私も自分が知っている限りで答えるんですが、野球指導者になるには色々な紆余曲折があったと思います。その辺りの話を聞かせてください。

藤原 運も良かったんだと思います。学生時代は指導者になりたいと思って教職課程を履修していたのですが、結局、修了には2教科足りずに卒業しました。それで最初は一般企業に就職したんですが、1年経った頃にPL学園の寮係兼コーチの話があったんです。

—それで迷わずコーチの道を選んだんですか。

藤原 野球に携わりたいとは思っていましたが、正直迷いました。就職課にもお世話になったので相談に行きましたし、加藤さんにも相談に行きましたね。最終的には自分がやりたいことをしなければと思い、コーチの道を選びました。それからは寮係をしながら、通信制でやり残した教職免許を取得し、非常勤講師兼野球部コーチとなりました。そして監督就任と同時に教諭として採用されました。運というか、タイミングも良かったのだと思います。

藤原 私の場合は年齢が若いこともあり、監督や先輩コーチと選手・生徒の間で潤滑油のような役割を果たせたのではないかと思います。選手にとってはコーチというよりもOBという感じだったのでしょうか。

—教壇に立つということも大変だったのでは? 毎日授業の準備で大変だったでしょう。

藤原 最初はクラブ生を集めたクラスを受け持っていました。今は一般生も教えています。野球でもそうですが、生徒との信頼関係を作るのが一番大切ですね。人に教えるというのは難しいなということもいつも感じながら教壇に立っています。

—本心に指導者になりたいという夢をあきらめなくて良かったですね。確かに大学4年間では教職を取りきれなかったけど、積み重ねがあったからこそだと思います。いま大学でクラブ活動をしている学生の半数くらいは指導者になりたいという漠然とした思いは持っています。でもその中でそのために具体的な努力をできるのは多くありません。夢が夢で終わってしまう学生が多いのではないかと思います。

藤原 私の場合は在学中には教職免許を取り切れませんでした。ちゃんと頑張れば4年で取れると思いますし、実際に同級生でちゃんと取った者もいます。周りの理解やサポートがあって、あとは本人がやる気さえあれば十分可能です。最終的には教職を含めて188単位取りました。まあ色々と助けてもらいましたが(笑)。

<インタビューを終えて>
笑顔で語る藤原さんは、スポーツマンらしく爽やかで好青年という感じがしました。重圧にもめげず頑張ってください。多くの校友が期待しています。

学歌

大阪経済法科大学 学生歌

われらが白き学舎に

作詞 杉 紀彦
作曲 服部 克久

一 君に会えてよかった
生駒の緑萌え 花の香る地球を
胸に刻む季節 道は遠く遠く
希望(のぞみ)はるか彼方
されどわれらが白き学舎に
生きる力たくわえつつ
大阪経法大 あゝ 経法大

二 君の厚き友情 信貴の山に似て
春は青くさやかに 秋は紅く染まる
時代こえてこえて 理想めざす心
今はわれらが白き学舎に
愛と誠育みつつ
大阪経法大 あゝ 経法大

三 君の潔き悩みを 生駒に洗う朝
君の深き喜び 風に語る夕べ
共にいつかいつか 強く生きる為に
明日もわれらが白き学舎に
青春の血わきたてつつ
大阪経法大 あゝ 経法大

阪本常任幹事の尽力により学歌がカラオケに

カラオケに行く機会があれば索引で校歌を検索してほしい。そして、一度学歌を歌ってみてほしい。きっと学生時代の懐かしい思い出が蘇ってくることだろう。全国に700以上ある大学のうち、カラオケに校歌が収録されている大学はわずか6大学しかない。本学以外は100年以上の歴史を有する大学ばかりであり、いかにこのことが快挙であるか理解できる。

来る6月26日の校友会総会の場で阪本常任幹事の功績を称えるために、大学ならびに校友会より、感謝状と記念品が贈られることになっている。

本学の学歌「われらが白き学舎に」がカラオケに収録されているのをご存じだろうか。

校友会常任幹事であり、株式会社オンキョーシステム等、いくつかの会社の代表取締役を勤める阪本誠氏(4期生、1977年度卒業)が第一興商に働きかけて実現したものだ。第一興商といえば通信カラオケDAM、カラオケボックス「ビッグエコー」で知られるカラオケ業界のトップ企業であり、第一興商のカラオケに収録されたということはつまり全国どこでも本学の学歌を歌うことができるということだ。





大学の近況



外野貴志さん(経済学部4年)が公認会計士第2次試験に現役合格!

大学院進学、国内外の大学院に19名が進学

大学院は、「研究者の養成機関」という伝統的な役割に加え、法科大学院・MBA・会計専門職など専門職を養成する役割を担うようになり、進学者数もこの10年余りの間に倍増している。...

3年間の学習を経て、今年はいじめて公認会計士試験を受験。昨年5月の第2次試験短答式試験、同年7月の同論文式試験にパスし、初受験で第2次試験合格を果たしました。...

インタビュー (2003年10月)

目指していた試験に合格できてすごくうれしいです。これで勉強が終わるわけではありませんが、受験勉強から解放されるのもうれしいですね(笑)。...

早く取得できたと思いますが、最終目標はあくまでも公認会計士でした。試験準備のために民法、商法、簿記、財務諸表などの科目を特に重点的に勉強し、今年に初めて公認会計士試験を受験しました。...

大学院合格実績 [2003年度] 東京大学大学院(経済学研究科) 京都大学大学院(法学研究科) 大阪府立大学大学院(人間文化科学研究科)...



即断・即決・即実行、そしてback to zero (原点回帰)



2002年3月 本学経済学部卒業 2004年3月 滋賀大学大学院経済研究科修士課程修了。...

「即断・即決・即実行」、「back to zero (原点回帰)」は山路さんから後輩たちへのメッセージ。現代は、スピード感がないのは致命的。...



本学卒業生(留学生)の呉紅敏さん、大阪府立大学から博士学位を授与



本学は留学生を積極的に受け入れており、現在、約200名の留学生が学んでいる。留学生は卒業後、帰国して就職・進学する者もいれば、日本に留まり就職する者、また大学院に進学してさらに研究を深めようと志す者も多い。...

と法学の隣接科目ですから、経済学研究科で法学を学ぶ利点があったのではないかと思います。

博士号を取るとなると研究もかなり大変ではなかったですか。

呉:最近では課程博士も増えていますが、それでも大阪府立大学経済学研究科ではまだ少ないですね。2003年度までで第38号で、私はそのうちの第35号ということになります。...

これからはどう研究を進めていく考えですか。

呉:学位論文では日本法との比較で中国医療保障制度について検討しました。その成果を土台にして、これからは社会保障・社会政策を中心に、東アジアの国際比較へと発展させたいです。

学位取得おめでとうございます。まずは呉さんの研究について教えてください。

呉:やっとの思いで博士学位を頂くことができました。学位論文は「中国医療保障制度の課題と展望 日本法との比較を中心として」です。...

経済学研究科で法学を専攻できるんですか。

呉:大阪府立大学は経済学研究科の中に法学を専攻できるコースがあるんです。私が研究している社会保障法は経済学

意欲的な計画ですね。ぜひ実現してください。最後に後輩の在学生たちに一言お願いします。

呉:経法大は人材を輩出するという意味において非常に良い環境を整えてくれていると思います。その中で研究者をめざす後輩たちもたくさん出て欲しいです。...



キャンパスライフの楽しみ方



キャンパスライフの楽しみ方の一つとして、**新入生(もちろん2年生以上の人たちにも!)課外活動に参加することを奨めするため、学生団体の皆さんに集まってもらい課外活動の意味について語ってもらった。現役学生の生の声をお届けいたします。**

課外活動に取り組もう

今日はお忙しい中、集まっていただき、ありがとうございます。いよいよ新入生を迎える時期が来ました。入学前から「このクラブに入ろう」と決めている人もいれば、何かしたいけどまだ決めてない人、「私には関係ないや」と考えている人など、課外活動に対する新入生のイメージは様々だと思います。今日は皆さんに課外活動を通じたキャンパスライフの楽しみ方についてお話を聞きたいです。最初に自己紹介を兼ねて、活動紹介してもらえますか。

印藤:経済学部2年の印藤です。女子バレー部に所属しています。私は最初はバレーボール部のマネージャー志望だったんですが、去年のワールドカップのお手伝いをしたことが縁で女子バレー部の選手になりました。女子バレー部の良いところは学年を超えてメンバ

ーがとても仲が良いことです。体育会クラブと言うと、練習第一で授業を受けるのも大変ではないかと考える人もいると思いますが、私たちのクラブはそんなことはありません。資格講座を受けている人たちもたくさんいます。

嶋田:サッカー部の法学部4年、嶋田です。体育会実務センターの役員もやっています。サッカー部の練習は平日の4時30分からで、土、日はリーグ戦の前以外は基本的に休日です。普通のサッカー部の練習以外には、去年から八尾市と提携した地域ボランティアの一環として、子どもたちにサッカーを教える体験会のコーチなどもしています。



法学部4年
嶋田 尚樹
サッカー部
体育会実務センター
役員

新垣:法学部2年の新垣です。学友会執行委員会で財務局員をしています。私は友達と一緒に経法祭実行委員会に入ったのがきっかけで学友会に関わるようになりまし。学友会は全学生を網羅した自治団体で、学生の意見をまとめて大学に要望するなど、学生生活の充実と向上のために様々な活動を行っています。と言うと堅いイメージがあるかも知れませんが、学生大会のアンケートをたくさん集めるために、「書いてくれた人には豚汁をプレゼント」という感じで、色々な工夫をしながら活動するのも面白いですよ。何となく学生団体に入りづらいというイメージがあるかもしれませんが、ぜひ参加してみたいです。



法学部2年
新垣 清乃
学友会執行委員会
財務局員

町田:法学部3年の町田です。放送局に入っていますが、私の場合は入学当初から放送局に入ろうと思っていて入部しました。放送局の活動としては、皆さんもよく耳にしている昼休み時間の放送のほか、色々な学生イベントに参加しています。放送局の魅力は何と言っても自分が好きな曲をキャンパスに流せることです。その他にもNHK放送コンテストに応募したりもします。



法学部3年
町田 朋佳
放送局

これからどんどん活動の幅を広げたいですね。

長野:経法研(経済法律研究会)で活動をしている長野と言います。私たちは体育会や文化会所属のクラブとは違って友好会なんですけど、昔からの活動成果を認めていただいて特別に部室もいただいています。今はエクステンションセンターがありますが、以前は経法研が自主的に資格取得のための勉強をしていました。私は授業プランの立て方を教えてもらうために経法研を訪ねたのが入ったきっかけです。1年生は単位のこととか初めてのことが多くて戸惑うことも多いと思います。そんな時はぜひ経法研に来てください。



法学部4年
本澤 慎司
文化会本部長
吹奏楽部

本澤:文化会本部長の本澤です。クラブは吹奏楽部に所属しています。吹奏楽部はもちろん経験者もいますが、大学に入って始めた初心者も多く、「興味がある」「やってみよう」という気持ちさえあれば大丈夫です。実際、3年生は全員初心者でしたが、今はちゃんと演奏できるようになっています。興味がある人はぜひ入ってください。

という気持ちさえあれば大丈夫です。実際、3年生は全員初心者でしたが、今はちゃんと演奏できるようになっています。興味がある人はぜひ入ってください。

クラブ紹介をそれぞれ簡単にしてもらいましたが、もう少し詳しく聞いてみたいと思います。まず体育会クラブについてですが、全体的に見てどういう状況ですか。

嶋田:体育会所属のクラブは現在、28クラブあり、総勢600名の学生が所属しています。体育会クラブと一言で言っても様々で、世界レベル・全国レベルで活

躍しているクラブもあれば、じっくりとマイペースを保って活動しているクラブもあります。全体的に見ると、人気がある種目では、「やる気があれば来るだろう」という感じで、あまり勧誘をしないところが多いかも知れませんが、大学の体育会クラブは、何となく「スポーツをしたいな」という気持ちでは続かないかも知れませんが、やはり「競技」ですから。それに合宿や遠征の費用、ユニフォームや競技用具など、それなりに出費もあります。「やりたい」という気持ち、やる気が求められます。でも「クラブに入ると勉強やアルバイトの時間がなくなるのではないか」という心配は無用だと思います。ほとんどの学生はアルバイトもしているでしょうし、教員免許を取得したり、資格講座を受ける学生も多いですよ。それにクラブ活動を通じて人間関係を学んだり、広げたりできるのも大きな利点だと思います。

文化会クラブはどうでしょうか。

本澤:文化会クラブは現在19団体が活動中で、約200名の学生が所属しています。それぞれのクラブでの活動とともに、文化会本部の活動もありますし、経法祭実行委員会にも参加する学生も多いです。

嶋田:体育会・文化会以外に友好会や執行委員会なども合わせると1000名弱くらいが課外活動に参加しているということになると思います。

1000名というと4名に1名ですね。思ったより多いような印象を受けますね。先ほど嶋田さんがクラブ活動は厳しい面もあるが、得られるものも多いという話をされていました。皆さんの意見はどうですか。

町田:どのクラブもそうだと思いますが、放送局は勉強・教室以外に大学での「居場所」を提供してくれるものだと思います。休み時間に部室に集まって授業のことを話したり、世間話をしたりすることもクラブ活動のもう一つの側面です。



印藤:大学に入ったら何か活動をするべきだと思います。アルバイトをたくさんしている学生もいると思いますが、それはまた違った経験ができます。先ほど嶋田さんが話していたスポーツ振興NPOに参加する中で人脈が広がったと感じます。



経済学部2年
印藤 亜也子
女子バレー部

長野:クラブや友好会は大学の中に自分の「居場所」を作ってくれます。中学・高校と大学との違いの一つは、中学・高校では教室は同じで先生が変わるのに対して、大学は時間ごとに教室が変わる点ではないでしょうか。その点、部室に行けば、ソファもあるし、キッチンもあるし、オセロもあるし、本も揃っている(笑)。自分たちの部屋という感じですね。その中で先輩・後輩の関係も含めて人間関係を広げ深めることができると思います。



法学部3年
長野 由香
経法研(経済法律研究会)で活動している

最後に新入生の皆さんにメッセージをお願いします。

嶋田:スポーツもお客さんではなく、参加者になった方が楽しいものです。経法祭も見るだけより、参加した方が楽しい。ちょっと苦しさもあるから、喜びもある。

ある。そういうものではないでしょうか。志さえあれば、どんな人でも自分に合ったクラブが見つかるはず。ぜひ訪ねてみてください。

本澤:学生時代は社会に出る前の準備期間みたいなものだと思います。学生生活を送る上で一番大切なことは何かを成し遂げたという充実感を持って卒業することです。しっかり目標を持っている人もいれば、そうでない人もいます。それがあがるか下がるかで過ごし方は大きく違ってきます。気が付いたらもう卒業ということでは、あまりにももったいないです。社会で生きていく上で人との関わりを断つことはあり得ないことです。他者との協調を図りながら自己主張もしなければなりません。時には波風も経験するかも知れません。そういうことを模擬的に経験できるのがクラブ活動ではないかと思えます。活動方針の決定、運営費の扱い、他大学との交流、自分とは違った個性・人生観を持った人との付き合い、他者への配慮、自己主張の仕方など、学べば学ぶほど数多くあり、そこで築き上げた人間関係は一生の財産になると思います。

新垣:何かやってみたいな、大学をもっと良くしたいなと思ったら、学友会執行委員会に来てください。キャンパスを盛り上げられるように、楽しく活動しましょう。

今日はありがとうございました。短い時間でしたが、課外活動を通じて得られる充実感やメリットを伝えられるようなお話をしていたいただいのではないかと思います。新歓期間の真最中ですが、ぜひ多くの新入生が様々な課外活動に参加してほしいと思います。



大学行事報告

第30回卒業式、
経済学部365名、
法学部363名が旅立つ



3月18日(木) 本学総合体育館「尚淑館」で午前11時から第30回卒業式が挙行され、経済学部365名、法学部363名が新たな門出を迎えた。

式典では、冒頭、出席者全員で学歌「われらが白き学舎に」を斉唱した後、経済学部卒業生を代表して小泉泰典さん、法学部卒業生を代表して田中知香さんが学位記を授与された。

続いて藤田整学長から式辞、伴井敬司校友会会長から祝辞をいただき、続いて「学長賞」「学部長賞」「学長特別賞」「スポーツ敢闘賞」「文化活動特別賞」の授与が行われた。そして卒業生を代表して井上麻理奈さんが答辞を行い、学生生活で得られたことを糧にこれから社会で活躍していく決意を語ってくれた。最後に全体で「蛍の光」を斉唱し、卒業式は厳粛な雰囲気の中で閉式となった。

- 学長賞
経済学部 小泉泰典
- 経済学部 田中知香
- 法学部 新村知宏
- 法学部 井上麻理奈
- 経済学部長賞
陳 珺 今西弘喜 中根 望
- 法学部長賞
北山優哉 池邊 洋 水野邦彦
- 学長特別賞
経済学部 外野 貴志
- 法学会学生顕彰論文優秀賞
二席 田邊弘樹 論文名「白の信用性」

三席 林 里奈
論文名「『水』戦争 公共事業と政治策略 (長野の脱ダム問題をめぐって)」

西郷祐介
論文名「死刑存廃論と代替刑について」
スポーツ敢闘賞
経済学部 沖坂 裕 [卓球部]
田中知香 [卓球部]
法学部 屋我慎二 [ソフトボール部]
文化活動特別賞
経済学部 北尾哲也

4月3日(土)
2004年度入学式を挙行



4月3日(土) 天候にめぐまれ満開の桜のもと、総合体育館「尚淑館」で午前10時から2004年度入学式が挙行され、経済学部489名、法学部518名が晴れの日を迎えた。

入学式では、最初に新入生代表による挨拶が行われ、経済学部生を代表して野原孝泰さん、法学部生を代表して吉村由佳さんが宣誓文を読み上げた。続いて、藤田整学長から式辞、岩崎健二八尾市助役から八尾市長の祝辞代読が行われた。

また在学生を代表して学友会執行委員長の後藤里恵さんが歓迎の挨拶を行った後、最後は閉式前に練習したばかりの学歌「われらが白き学舎に」を全体で斉唱し、入学式を閉式した。

入学式終了後は、新入生は在学生による新入生歓迎イベントに参加し、午後過ぎまでキャンパスはフレッシュな新入生たちで賑やかな雰囲気に包まれた。

新入生父母教育懇談会、
経済学部・法学部で
合計約600名が参加

入学式終了後、午前11時過ぎから新入生父母教育懇談会が開催され、経済学部・法学部、合わせて約600名のご父母・ご家族の方々が参加された。

新入生父母教育懇談会は、入学式で来学される新入生のご父母の方々を対象に、本学の教育システムや父母会事業の説明などを行うことを目的として昨年度から実施されたものだ。今回は特に入学式が土曜日に開催されたこともあって、遠方からも多くお越しいただき、盛況な懇談会となった。

学部別に会場を分けて行われた教育懇談会では、学部長の挨拶、父母会会長の挨拶に続いて、教育説明会として教育システム説明、教員紹介、就職サポート説明などが行われた。また父母会の活動紹介も行われるなど、1時間余りの間で密度の濃い懇談会になった。

商社OBが講師に
「国際ビジネス入門」を
新規開講

「国際ビジネス入門」は、商社マンOBたちが作るNPO法人「国際社会貢献センター」の所属講師が商社での実経験をもとに、国際ビジネスの推移、東アジアにおける展開、日本の企業内取引(国際分業)、開発輸入とプラント輸出など「プロジェクト型」ビジネス、グローバル化時代の企業戦略などをテーマに講義する。

この科目は入門科目として開講されるので、内容的には新入生でも十分に理解できるように、実際の現場経験に重きを置いて講義される。

今や経済活動はすべて国際的に行われていると言っても過言ではない。ビジネスの現場を知るといっても、貴重な講座である。

「春の修学相談センター」を開設

新年度の履修登録時期に合わせて、4月8日(木)から26日(月)の日程で、「春の修学相談センター」が開設され、連日、多くの学生・父母が訪れ、履修・学修に関する相談をはじめ、クラブ活動や奨学金、就職、資格講座、留学など様々な分野の相談が寄せられた。

この「春の修学相談センター」は、例年、各課の窓口などで行われていた相談業務を1箇所に集約したもので、教員・職員・学生ボランティアが、1号館1階の多目的ホールで終日、相談を受け付けた。今年度が初めての試みとなるが、履修登録の仕方や教室の場所など普段、窓口では聞きにくい内容も気軽に聞けると好評で、4月8日から15日までの約1週間で約500件の相談が寄せられるほどであった。

今後は、6月20日(日)に開催される父母会総会と父母懇談会(本学会場)、それ以降、全国各地で順次開催される予定の地方父母懇談会に合わせて、ご父母・ご家族を対象とした相談会を開催する予定である。

日興コーディアル証券・金融知力普及協会提供講座
「ファイナンス入門」「ファイナンス実践」が
新規開講

金融、年金、保険、税制など、私たちの生活に密接に関連する制度が大きく変わろうとしている。そのような時代を迎えて、ファイナンス(金融)に関する知識を持つことは、金融業界で勤める人のみならず、誰もが身に付けることが必要になっている。最近よくテレビや新聞・雑誌に登場する「ファイナンシャルプランナー」は、個人の資産運用を扱うプロフェッショナルとして注目を集めていることは皆さんもよくご存じだろう。

今年度から新規開講された「ファイナンス入門」「ファイナンス実践」は、ファイナンシャル・リテラシー 社会人・企業人として必須の能力となる金融知識 を身に付けることを目的として開講されたもので、ファイナンシャルプランナーをめざす人にはその基本知識を提供してくれるものである。

この講座の一つの特徴は、日興コーディアル証券・金融知力普及協会の提供講座であるという点だ。提供講座とは、企業などから講師が派遣されるもので、テキストも企業などが提供してくれる場合が多い。

今回新規開講された「ファイナンス入門」(春学期)、「ファイナンス実践」(秋学期)のほかに、関連講座として野村証券提供講座「証券論特講」(秋学期)も開講されている。こちらは2002年度から開講されているもので、証券投資とライフプランニングの考え方を中心に講義が行われている。